

雪下ろし安全10箇条 ～除雪作業中の事故に注意しましょう～

国土交通省では、除雪作業中の事故における要因として最も多い屋根からの転落事故のほか、転倒事故、除雪機による事故、屋根から落雪による事故、水路等への転落事故、発症などの防止のための注意事項を「雪下ろし安全10箇条」として取りまとめています。

1.安全な装備で行う（最重要！！）



- 安全な装備は、屋根からの転落などの**事故を未然**に防ぎます。
- 安全帯は、腰全体を支えるハーネス型や体全体を支える**フルハーネス型**を使用。
- 命綱は、ザイルロープなど丈夫なものを**屋根の上で止まる長さ**で正しく結ぶ。
- 命綱の一端は、アンカー（無い場合は雪下ろしをする屋根の反対側の柱や固定物）に**しっかり固定**する。
- ヘルメットは、あごひもを締め、長靴は、滑りにくいものを使用し、動きやすい服装で作業する。
- これらの装備は、ホームセンターや登山キャンプ用品店などで購入できます。

2.はしごは固定する



- はしごが**転倒**することがあるため、必ず**しっかり固定**する。
- 足元を**しっかり**固め、ロープや器具を使用。
- はしごは、斜めに立てかけず、屋根に対して**決められた角度**でまっすぐ立てる。
- はしごの長さは、軒先から少し高くかける。
- はしごの昇り降りは注意し、**はしごから屋根に移動するときは特に注意**。
- はしごの上で雪庇を落とすなどの作業は危険なため、絶対にやめましょう。

3.作業は2人以上で行う



- 1人での作業は、事故が発生した際に、発見が遅れる可能性がある。
- 発見が遅れると**重大な事故**につながる危険性が高くなる。
- 家族や親戚と一緒に**複数人で除雪作業**を行う。
- **近所の方や地域コミュニティと協力**して作業を行う共助による除雪活動も重要。

4.足場の確認を行う



- **屋根の雪止めの位置を確認**してから作業を行う。
- 落雪に巻き込まれないように、**屋根の上から下ろす**。
- 滑りにくくするよう、雪は少し残して作業する。
- 晴れていて気温が高い日は、滑りやすくなるため、特に注意。
- 水路等に転落する事故も増えているため注意。

5.雪下ろしのときは周りに雪を残す



- 屋根から転落した際に、地面、アスファルト、コンクリート等に強打すると、被害が大きくなる可能性がある。
- **落下した場所に積雪があることで被害を軽減**することができる場合がある。
- 屋根の雪下ろしを行う場合は、雪下ろし後に住宅周りの除雪を行う。

6.屋根から雪が落ちてこないか注意する



- 屋根から雪が落ちてくる可能性があるため、住宅の周りで**除雪する際に軒下では注意**。
- 屋根に雪が積もって時間が経つと、氷のように堅くなり、直撃すると非常に危険。
- 新雪や晴れて暖かい日のゆるくなった雪は特に注意。
- 屋根雪を人力によらず落下させる落雪式住宅の場合は特に注意。

7.除雪道具や安全対策用具の手入れ点検を行う



- スコップやスノーダンプなどの除雪道具は、雪がつきにくくなるスプレーを使用するなど使いやすくしておく。
- 除雪道具や安全対策用具が古くなり、壊れていないか**定期的に点検**しましょう。

8.除雪機の雪詰まりはエンジンを切ってから棒などで取り除く



- 雪が詰まったときは、必ず**エンジンを切って**から雪を取り除く。
- つまりを取り除くときは、棒などを使用する。
- **素手で取り除くのは、非常に危険なため絶対やめましょう**。
- デッドマンクラッチ（安全装置）をひもで縛るなど、無効化することによる事故が増えています。絶対にやめましょう。

9.携帯電話を身につける



- 事故が発生したときは、動くことができなくなることがあります。
- **携帯電話**を身につけることで、**緊急時**でも家族や緊急医療機関などに**すぐに連絡**をとることができます。

10.無理はしない



- 除雪作業は重労働です。**体調が悪いときは、除雪作業を行わない**。
- 作業前には、準備運動を行う。
- こまめに休憩をとりながら作業を行う。
- 寒い屋外での重労働による発作など発症の危険性があるため**無理をしない**。

～除雪作業中の事故を減らすために～
自分の経験や体力を過信せず、家族や地域で声を掛け合いながら、万全の安全対策で行いましょう。



除雪10箇条



「雪下ろし安全10箇条」は動画でもご覧いただけます。